

# FUJITSU Server PRIMERGY RX100 S8 用 D3229 BIOS セッ トアップユーティリティ

リファレンスマニュアル

# DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、  
このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008  
基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を  
満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH  
[www.cognitas.de](http://www.cognitas.de)

## 著作権および商標

Copyright © 2013 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名およびソフトウェア名は、各社の商標です。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel、インテルおよび Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

---

## 本書をお読みになる前に

### 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、『安全上のご注意』および当マニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

### 電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

### アルミ電解コンデンサについて

本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。

目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短時間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

### ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

---

## 瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

## 外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

## 高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

## 日本市場の場合のみ：

### SATA ハードディスクドライブについて

このサーバの SATA バージョンは、SATA/BC-SATA ストレージインタフェースを搭載したハードディスクドライブをサポートしています。ご使用のハードディスクドライブのタイプによって使用方法と動作条件が異なりますので、ご注意ください。

使用できるタイプのハードディスクドライブの使用方法と動作条件の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/harddisk/>

---

# 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b>	<b>9</b>
<b>2</b>	<b>BIOS セットアップの操作方法</b>	<b>11</b>
2.1	BIOS セットアップを開く	11
2.2	Boot メニューを直ちに開く	11
2.3	画面設計	13
2.4	BIOS セットアップを終了する	14
<b>3</b>	<b>Main メニュー</b>	<b>15</b>
<b>4</b>	<b>Advanced メニュー</b>	<b>17</b>
4.1	PCI Subsystem Settings	20
4.2	Trusted Computing	22
4.3	CPU Configuration	23
4.4	SATA Configuration	27
4.5	USB Configuration	28
4.5.1	USB Port Security	30
4.6	Onboard Device Configuration	31
4.7	Memory Status	32
4.8	Super IO Configuration	33
4.8.1	Serial Port 1 Configuration	33
4.9	Network Stack	34
4.10	PCI Status	34
4.11	Option ROM Configuration	35
4.12	iSCSI Configuration	35
4.13	Driver Health	35

## 目次

---

5	Security メニュー . . . . .	37
6	Power メニュー . . . . .	41
6.1	Wake-Up Resources . . . . .	42
7	Server Mgmt メニュー . . . . .	43
7.1	Console Redirection . . . . .	48
7.2	iRMC LAN Parameters Configuration . . . . .	49
8	Boot メニュー . . . . .	53
8.1	CSM Configuration . . . . .	57
9	Save & Exit メニュー . . . . .	59
10	Flash BIOS アップデート . . . . .	61
10.1	Flash Memory Recovery Mode . . . . .	63
	Index . . . . .	65

---







---

# 1 はじめに

BIOS セットアップでは、ご使用のシステムのシステム機能とハードウェア構成を設定します。行った変更は、設定を保存して BIOS セットアップを終了すると有効になります。

BIOS セットアップの各メニューで、以下の項目の設定を行います。

- *Main* – システム機能
- *Advanced* – 内蔵デバイスのシステム構成
- *Security* – セキュリティ機能
- *Power* – 電源管理機能
- *Server Mgmt* – サーバ管理
- *Boot* – 起動順位の設定
- *Save & Exit* – 保存と終了

設定オプションは、システムのハードウェア構成によって異なります。


そのため、ご使用のシステムの BIOS セットアップではメニューや特定の設定オプションが使用できない場合や、BIOS バージョンによってメニューの場所が異なる場合があります。

## はじめに

---

### 表記規定

このマニュアルで使用されているフォントや記号の意味は、以下のとおりです。

イタリック	コマンド、メニュー項目、パス名、およびファイル名
fixed font (固定幅フォント)	システム アウトプット
semi-bold fixed font (セミボールド固定幅フォント)	キーボードで入力する必要があるテキスト
かぎ括弧 (「 」)	章の名前や強調されている用語
二重かぎ括弧 (『 』)	他のマニュアル名など
▶	記載されている順序で行う必要がある作業
Abc	キーボードのキー
i	追加情報、注記、ヒント
 <b>注意！</b>	守らなかった場合にお客様の安全、システムの操作性、データのセキュリティを害する事柄

---

## 2 BIOS セットアップの操作方法

### 2.1 BIOS セットアップを開く

- ▶ システムを起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F2]** を押します。
- ▶ パスワードが割り当てられている場合は、そのパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押して確定します。

BIOS セットアップの *Main* メニューが画面に表示されます。

- ▶ システム固有の情報を表示するには、「*System Information*」を選択して **[Enter]** キーを押します。

BIOS のリリース情報が表示されます。

- BIOS release (例 Version R1.3.0)  
システムボードの番号 (D3229-A1x など) は、「*Board*」に表示されます。
- ファンクションキー **F1** を押します。  
一般的なヘルプ情報が表示されます。

*Main* メニューが表示されない場合

- ファンクションキー **[F2]** を押しても *Main* メニューが表示されない場合は、**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]** キーを同時に押してシステムを再起動してから、BIOS セットアップユーティリティを起動します。

### 2.2 Boot メニューを直ちに開く

「*Boot Option Priorities*」メニュー項目の「*Boot*」メニューで設定した最初のドライブからシステムを起動しない場合に、この機能を使用します。

- ▶ システムを起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F12]** を押します。  
*Boot* メニューが、ポップアップウィンドウとして表示されます。
- ▶ カーソルキー **[↑]** または **[↓]** を使用して OS を起動するドライブを選択し、**[Enter]** キーを押して確定します。選択オプションは、*Boot* メニューと同じです。



選択したオプションは、現在のシステムの起動に適用されます。次のシステム起動時には、*Boot* メニューで行った設定が再び適用されます。

- ▶ BIOS セットアップを起動するには、「*Enter Setup*」パラメータを選択し、**Enter** キーを押して確定します。

## 2.3 画面設計

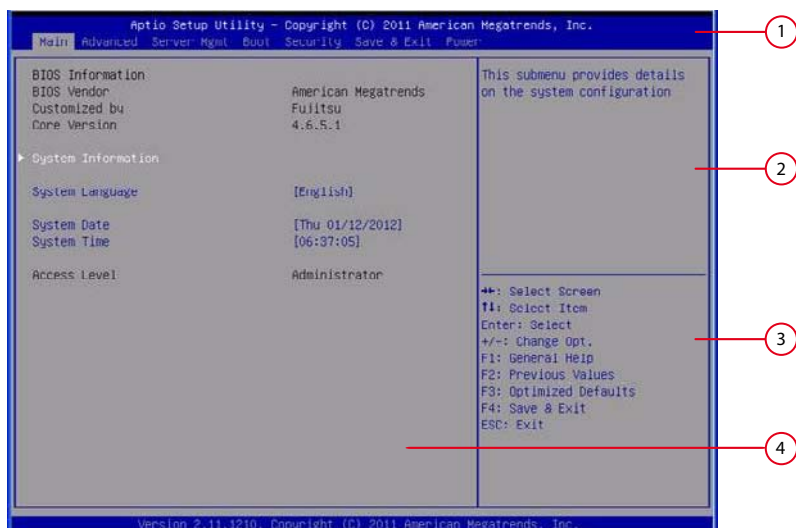


図 1: BIOS セットアップ画面の例

BIOS セットアップ画面は、以下の領域に分かれています。

### 1 メニューバー

さまざまな BIOS セットアップメニューの選択に使用します。

### 2 ヘルプ領域

ヘルプ領域には、簡単な情報が表示されます。

### 3 操作領域

操作領域には、BIOS セットアップで使用するキーがリストアップされます。

### 4 作業領域

作業領域には、選択したメニューのパラメータが現在の値と共に表示されます。パラメータ値は要件に従って変更できます（適切なフィールドがグレー表示されていない場合）。

- ▶ サブメニューがあるパラメータを示します。

### 2.4 BIOS セットアップを終了する

- ▶ 「*Save & Exit*」メニューで、必要なパラメータを選択して **Enter** キーを押します。

### 3 Main メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

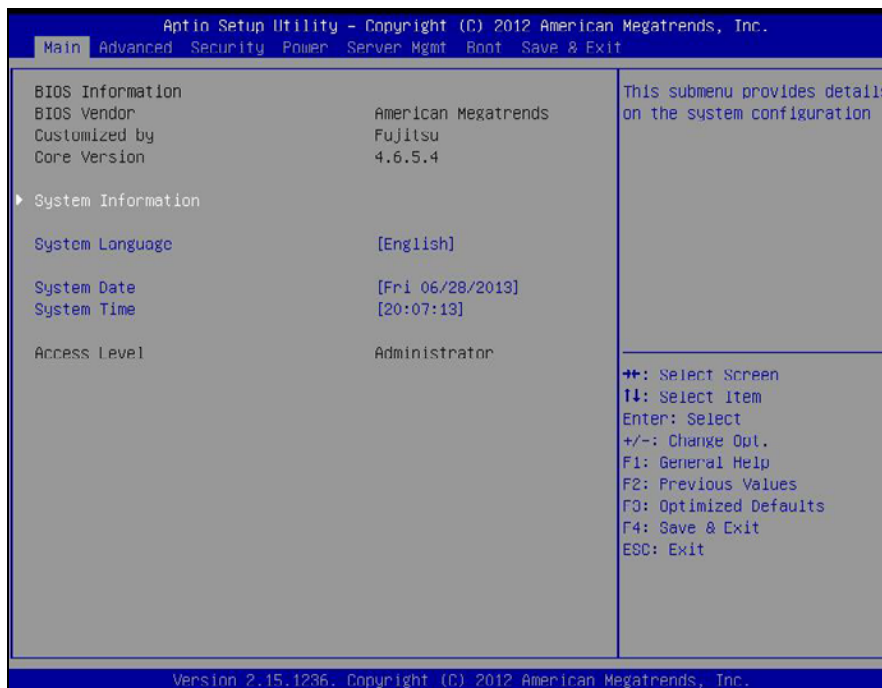


図 2: 「Main」メニューの例

#### System Information

「System Information」ウィンドウに、システム構成に関する概要が表示されます。これには、CPU、メモリ、および LAN の構成データが含まれます。

#### System Language

BIOS セットアップユーティリティで使用される言語を定義します。

#### System Time / System Date

システムに設定されている現在の日付 / 時刻が表示されます。

システム時刻の形式は *HH:MM:SS* で、システム日付の形式は *DOW (day of week)/MM/DD/YYYY* です。

現在の時刻 / 日付設定を変更するには、「*System Time*」 / 「*System Date*」フィールドに、それぞれ新しい時刻と日付を入力します。「*System Time*」および「*System Date*」フィールド内のカーソル移動には **[Tab]** キーを使用します。



システムの電源を切ってから再度投入した後、システム時刻および日付が失われる場合は、リチウムバッテリーが切れていますので交換が必要です。

リチウムバッテリーの交換方法については、『RX100 S8 Server アップグレード&メンテナンスマニュアル』を参照してください。

### *Access Level*

BIOS セットアップユーティリティの現行の *アクセスレベル* を表示します。

#### *Administrator*

システムがパスワード保護されていない場合、または Administrator パスワードが入力された場合、*Access Level* は Administrator です。

#### *User*

User パスワードのみが設定されている場合、ユーザには *User* レベルが付与されます。

Administrator および User パスワードが割り当てられている場合、「*Access Level*」は BIOS セットアップユーティリティの起動に使用されたパスワードに依存します。



## 4 Advanced メニュー



### 注意！

デフォルト設定を変更するのは、特別な目的で変更が必要な場合だけにしてください。このメニューの設定が正しくないと、コンピュータが誤動作する場合があります！

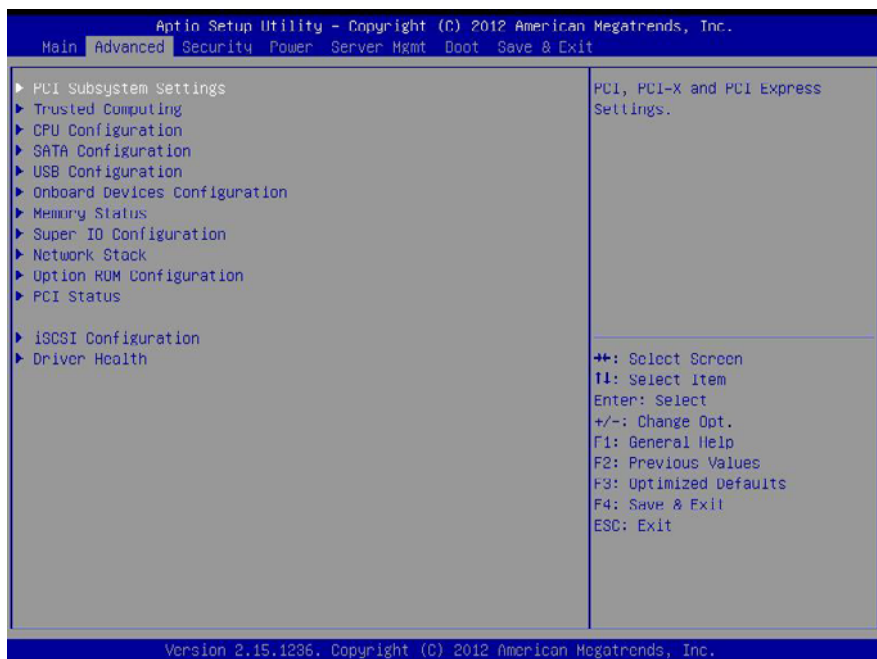


図 3: 「Advanced」メニューの例

### PCI Subsystem Settings

システムボードの PCI スロットおよび PCI コンポーネントの設定に使用するサブメニューを呼び出します（[20 ページの「PCI Subsystem Settings」](#)を参照）。

### Trusted Computing Settings

システムの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します（[22 ページの「Trusted Computing」](#)を参照）。

### *CPU Configuration*

プロセッサの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します  
([23 ページ](#) の「[CPU Configuration](#)」を参照)。

このサブメニューで使用できる設定は、ご使用のプロセッサによって異なります。

### *SATA Configuration*

該当する SATA コントローラの設定が表示されるサブメニューを呼び出します ([27 ページ](#) の「[SATA Configuration](#)」を参照)。

### *USB Configuration*

システムボードの USB コンポーネントの設定に使用するサブメニューを呼び出します ([28 ページ](#) の「[USB Configuration](#)」を参照)。

### *Onboard Devices Configuration*

オンボードデバイスの設定に使用するサブメニューを呼び出します。  
一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります ([31 ページ](#) の「[Onboard Device Configuration](#)」を参照)。

### *Memory Status*

メモリモジュールのステータスの確認に使用するサブメニューを呼び出します ([32 ページ](#) の「[Memory Status](#)」を参照)。

### *Super IO Configuration*

システムスーパー IO チップパラメータの設定に使用するサブメニューを呼び出します ([33 ページ](#) の「[Super IO Configuration](#)」を参照)。

### *Network Stack*

UEFI ネットワークスタックのセットアップに使用するサブメニューを呼び出します ([34 ページ](#) の「[Network Stack](#)」を参照)。

### *Option ROM Configuration*

シリアルポート 0 の設定に使用するサブメニューを呼び出します  
([35 ページ](#) の「[Option ROM Configuration](#)」を参照)。

### *PCI Status*

PCI Express 拡張カードのステータスの確認に使用するサブメニューを呼び出します ([34 ページ](#) の「[PCI Status](#)」を参照)。

### *iSCSI Configuration*

LAN コントローラの UEFI ドライバの設定に使用するサブメニューを呼び出します ([35 ページ](#) の「[iSCSI Configuration](#)」を参照)。

*Driver Health*

ドライバ健康インタフェースをサポートする UEFI ドライバの健康状態を表示するサブメニューを呼び出します ( [34 ページ](#) の「**PCI Status**」を参照)。

## 4.1 PCI Subsystem Settings

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### ASPM Support

PCI Express リンクの電源管理に Active State Power Management (ASPM) が使用されます。ASPM はこの設定によって全般的に有効になっていても、該当する PCI Express 拡張カードまたはオンボードコントローラも ASPM をサポートしている場合にのみ特定のリンクに対して有効になります。

#### Disabled

ASPM が無効になります。PCI Express リンクの消費電力は低下しません。互換性は最大です。

#### Auto

省電力を最大化されるように設定しようとします。PCI Express リンクの低電力モードは L0s（単方向）または L1（双方向）に設定されます。

#### Limit to L0s

PCI Express リンクの低電力モードは L0s（単方向）に設定されます。互換性は低下しますが、省電力機能は高まります。



ASPM が無効になっていない場合、PCI Express デバイスのレイテンシが長くなることがあります。複数の拡張カードを使用した場合、この機能は正しくサポートされず、未定義のシステム動作が発生することがあります。

### Above 4G Decoding

4 GB のアドレス境界を超えるメモリリソースを PCI デバイスに割り当てることができるかどうかを指定します。選択肢は、オペレーティングシステムと取り付けられているアダプタカードによって決まります。

#### Disabled

4 GB のアドレス境界未満のメモリリソースのみ、PCI デバイスに割り当てられます。この選択肢は、32 ビットオペレーティングシステムを使用している場合に必須ですが、64 ビットオペレーティングシステムでもサポートされます。

#### Enabled

4 GB のアドレス境界を超えるメモリリソースを PCI デバイスに割り当てることができ、64 ビットのアドレスデコーディングが可能です。この選択肢は、64 ビットオペレーティングシステム

でのみサポートされます。取り付けられた PCI Express デバイス（コプロセッサアダプタカード）が大容量のメモリリソースを要求している場合に必要場合があり、4 GB のアドレス境界未満のアドレス空間に適合しなくなります。



32 ビットオペレーティングシステムの PCI アドレスデコーディングは、使用可能な PCI デバイスが 64 ビットのアドレスデコーディングをサポートしていても、4 GB のアドレス境界による制限を受けます。

#### *DMI Control*

CPU とチップセット間のバス接続速度を選択します。速度が遅いほど消費電力が少なくなりますが、システムパフォーマンスも低下します。

##### *GEN1*

CPU とチップセット間のバス接続を設定して 2.5 GT/s で実行します。

##### *GEN2*

CPU とチップセット間のバス接続を設定して 5.0 GT/s で実行します。

#### *Consistent Device Naming*

シャーンに印刷されるデバイス名、またはシステムセットアップ時のデバイス名（「Slot 1」など）もオペレーティングシステムに報告するかどうかを指定します。オペレーティングシステムは、このデバイス名をユーザの通信に使用します。これにより、ケーブル配線エラーを回避して、信頼性を向上させることができます。

##### *Disabled*

デバイス名は、オペレーティングシステムに報告されません。

##### *Enabled*

デバイス名は、オペレーティングシステムに報告されます。

## 4.2 Trusted Computing

TPM を有効にするためのサブメニューを開き、TPM を設定します。

このセットアップメニューが表示される場合は、TCG 1.2 仕様に準拠したセキュリティ / 暗号化 (TPM - Trusted Platform Module) チップが、システムボードに搭載されています。このチップはセキュリティ関連のデータ (パスワードなど) を安全に保存できます。TPM の使用は標準化され、Trusted Computing Group (TCG) で規定されています。

### *TPM Support*

TPM (Trusted Platform Module) ハードウェアを使用できるかどうかを指定します。

TPM が無効の場合、システムは TPM ハードウェアのないシステムと同様に動作します。

#### *Disabled*

Trusted Platform Module はありません。

#### *Enabled*

Trusted Platform Module があります。

### *TPM State*

TPM (Trusted Platform Module) を OS で使用できるかどうかを指定します。

#### *Disabled*

Trusted Platform Module は使用できません。

#### *Enabled*

Trusted Platform Module を使用できます。

### *Pending TPM operation*

TPM 処理を次回起動時に実行するようにスケジュールします。

#### *None*

TPM 処理は実行されません。

#### *Enable Take Ownership*

OS が TPM の所有権を取得できるようにします。

#### *Disable Take Ownership*

OS が TPM の所有権を取得できないようにします。

#### *TPM Clear*

TPM は出荷時のデフォルトにリセットされます。TPM 内のすべてのキーはクリアされます。

## 4.3 CPU Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### *Socket 0 CPU Information*

ソケット 0 CPU の情報を表示するサブメニューが開きます。

### *Hyper-Threading*

Hyper-threading Technology は、シングルコアの物理プロセッサを複数の論理プロセッサであるかのように見せかけることができます。このテクノロジーにより、OS によるプロセッサ内部資源の効率的な利用が可能になり、結果的にパフォーマンスが向上します。このテクノロジーの利点を使用できるのは、ACPI をサポートしている OS だけです。この設定は、ACPI をサポートしていない OS には影響を与えません。

#### *Disabled*

ACPI OS は、プロセッサコアの最初の論理プロセッサのみを使用できます。この設定は、Hyper-threading Technology が ACPI OS に正しくインプリメントされなかった場合のみ使用してください。

#### *Enabled*

ACPI OS は、物理プロセッサ内のすべての論理プロセッサを使用できます。

### *Active Processor Cores*

複数のプロセッサコアが含まれているプロセッサの場合は、有効なプロセッサコアの数を制限できます。有効でないプロセッサコアは使用されず、OS から隠蔽されます。

#### *All*

使用可能なすべてのプロセッサコアが有効になり、使用できます。

#### *1...n*

選択した数のプロセッサコアのみが有効になります。残りのプロセッサコアは無効になります。



この選択を行うことで、特定のソフトウェアパッケージやシステムライセンスに関する問題が解決される場合があります。

### *Limit CPUID Maximum*

プロセッサで呼び出すことができる CPUID 機能の数を指定します。OS によっては、4 つ以上の機能をサポートする新しい CPUID コマンドを処理できないものもあります。これらの OS については、このパラメータを有効にする必要があります。

#### *Disabled*

すべての CPUID 機能がサポートされます。

#### *Enabled*

OS との互換性の理由から、プロセッサでサポートされる CPUID 機能の数が減ります。

### *Execute Disable Bit*

実行可能メモリ領域の保護（ウイルス対策保護）を指定します。この機能は、OS がサポートしている場合のみ有効です。eXecute Disable ビット（XD ビット）は、NX（No eXecute）ビットとも呼ばれます。

#### *Disabled*

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできないようにします。

#### *Enabled*

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできるようにします。

### *Hardware Prefetcher*

有効になっている場合、メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるメモリ内容が自動的にキャッシュにプリロードされます。メモリではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。



このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

#### *Disabled*

CPU のハードウェアプリフェッチを無効にします。

#### *Enabled*

CPU のハードウェアプリフェッチを有効にします。

### *Adjacent Cache Line Prefetch*

プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する 64 バイトキャッシュラインをロードするためのメカニズムがプロセッサに備わっている場合に、このパラメータを使用できます。これによって、空間局所性の高いアプリケーションのキャッシュヒット率が高まります。





このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

#### *Disabled*

プロセッサは、要求されたキャッシュラインをロードします。

#### *Enabled*

プロセッサは、要求されたキャッシュラインと隣接キャッシュラインをロードします。

### *Intel Virtualization Technology*

仮想コンピュータを使用して複数のソフトウェア環境の使用をサポートするための VMX (Virtual Machine Extensions) に基づいて、プラットフォームのハードウェア環境および複数のソフトウェア環境の仮想化をサポートします。仮想化テクノロジーにより、16 ビット/32 ビット保護モード、および EM64T (インテル® Extended Memory 64 Technology) モードでの仮想化を目的としてプロセッササポートを拡張します。

#### *Disabled*

VMM (Virtual Machine Monitor : 仮想マシンモニタ) で、追加のハードウェア機能は使用できません。

#### *Enabled*

VMM で、追加のハードウェア機能を使用できます。

### *VT-d*

VT-d (Virtualization Technology for Directed I/O) で、複数の仮想マシン間の共有 I/O デバイスに対してハードウェアサポートを提供します。VMM (仮想マシンモニタ) で、同一の物理 I/O デバイスにアクセスする複数の仮想マシンを管理するための VT-d を使用できます。

#### *Disabled*

VT-d が無効になり、VMM で VT-d を使用できません。

#### *Enabled*

VMM の VT-d が有効になります。

### *Enhanced SpeedStep*

プロセッサの電圧と周波数を指定します。EIST (Enhanced Intel SpeedStep® Technology) は省電力機能です。



プロセッサの電圧をそれぞれのシステム要件に適合させます。クロック周波数を減らすと、システムの消費電力が減少します。

### *Disabled*

Enhanced SpeedStep 機能が無効になります。

### *Enabled*

Enhanced SpeedStep 機能が有効になります。

### *Turbo Mode*

最高のパフォーマンス状態（P0）が OS によって要求される場合に、プロセッサの動作周波数を上げることができます。この機能は、インテル® Turbo Boost Technology とも呼ばれています。

### *Disabled*

Turbo Mode が無効になります。

### *Enabled*

Turbo Mode が有効になります。

### *CPU C3 Report*

プロセッサの C3 状態を ACPI C-2 として OSPM（OS Power Management）に渡します。

### *Disabled*

CPU C3 は OSPM に提供されません。

### *Enabled*

CPU C3 は OSPM に提供されます。

### *CPU C6 Report*

プロセッサの C6 状態を ACPI C-3 状態として OSPM に渡して、プロセッサの Deep Power Down Technology を有効にします。

### *Disabled*

CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されません。

### *Enabled*

CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されます。

### *CPU C7 Report*

プロセッサの C7 状態を ACPI C-3 状態として OSPM に渡して、プロセッサの Deep Power Down Technology を有効にします。

### *Disabled*

CPU C7 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されません。

### *Enabled*

CPU C7 は ACPI C-3 状態として OSPM に提供されます。

## 4.4 SATA Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### *SATA Mode*

SATA ポートが動作するモードを定義します。

### *IDE Mode*

SATA インタフェースは IDE モードです。

### *AHCI Mode*

SATA インタフェースは AHCI モードです。

### *RAID Mode*

SATA インタフェースは RAID モードです。

### *Aggressive Link Power Management (ALPM)*

AHCI モードで Aggressive Link Power Management (ALPM) を有効にして省電力を可能にします。

### *Disabled*

ALPM は非アクティブ化されます。

### *Enabled*

ALPM はアクティブ化されます。

## 4.5 USB Configuration

### USB Devices

使用できる USB デバイス、USB キーボード、USB マウス、USB ハブの数を表示します。

### xHCI Mode

青色で示される USB 3.0 コネクタで USB デバイスを動作可能なモードを指定します。



USB 3.0 をサポートしないオペレーティングシステム (Windows XP など) を使用している場合は、「xHCI Mode」で「Disabled」を選択してください。

### Smart Auto

使用するオペレーティングシステムが USB 3.0 (xHCI Mode) と USB 2.0 (EHCI Mode) のどちらをサポートするかによって、システムに電流が流れていない限り、次のシステムブートでは自動的にあらかじめ設定されているモードを使用します。「Smart Auto」の設定では、「Low Power Soft Off」を「Disabled」に設定してください。

### Auto

USB 3.0 デバイスは、BIOS POST の間は USB 2.0 モードで動作します。USB 3.0 をサポートするオペレーティングシステムは、オペレーティングシステムのブート中は USB 3.0 に切り替わります。

### Enabled

BIOS POST 中は、すべての USB 3.0 デバイスは USB 3.0 で動作します。USB 3.0 をサポートしないオペレーティングシステムの場合は、これらのデバイスをオペレーティングシステムで使用できません。

### Disabled

USB 3.0 デバイスは、BIOS POST 中だけでなく、USB 2.0 モードのオペレーティングシステムでも動作します。

### Legacy USB Support

USB レガシーサポートを利用できるかどうかを指定します。この機能は、OS を USB デバイスから起動する必要がある場合には、有効にするか「Auto」に設定する必要があります。

*Disabled*

USB レガシーサポートは利用できません。USB キーボードまたは USB マウスは、OS でサポートされている場合にのみ使用できます。OS を USB デバイスから起動することはできません。

*Enabled*

USB レガシーサポートを利用できます。USB キーボードまたは USB マウスも、USB をサポートしない OS で使用できます。OS を USB デバイスから起動できます。

*Auto*

USB レガシーサポートは、USB デバイスが接続されていない場合は無効になります。



USB レガシーサポート機能は、OS が USB をサポートし、OS を USB デバイスから起動しない場合には、無効にしてください。

*Onboard USB Controllers*

システムボードの USB コントローラを有効または無効にできます。オンボード USB コントローラが無効な場合は、接続されるすべての USB デバイスを使用できるわけではありません。ローカル接続されるキーボード、マウス、マストレージに加え、iRMC を使用するキーボード、マウス、マストレージや、内部接続 USB デバイスも使用できません。

*Enabled*

オンボード USB コントローラが有効になり、設定に従って動作します。

*Disabled*

オンボード USB コントローラが無効になります。

*Mass Storage Device(s)*

ユーザーが特定のデバイスエミュレーションを強制できるようにします。「Auto」が選択されている場合、デバイスのメディア形式に従ってエミュレートされます。光ディスクドライブは「CD-ROM」としてエミュレートされ、メディアのないドライブはドライブタイプに応じてエミュレートされます。

*Auto*

USB デバイスに応じたエミュレーションが選択されます。

*Floppy*

USB フロッピーエミュレーションを強制します。

### *Hard Disk*

USB ハードディスクエミュレーションを強制します。

### *CD-ROM*

USB CD-ROM エミュレーションを強制します。

## 4.5.1 USB Port Security

USB ポートの可用性を設定するサブメニューが開きます。

### *USB Port Control*

USB ポートの使用方法を設定します。無効にされた USB ポートは、POST 中に使用できず、OS でも使用できません。

#### *Enable all ports*

すべての USB ポートが有効です。

#### *Enable front and internal ports*

すべての前面および内部 USB ポートが有効です。

#### *Enable rear and internal ports*

すべての背面および内部 USB ポートが有効です。

#### *Enable internal ports only*

内部 USB ポートのみが有効です。

## 4.6 Onboard Device Configuration

オンボードデバイスを設定するサブメニューが開きます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### *LAN n Controller*

各オンボード LAN コントローラが機能するかどうかを指定します。複数のオンボード LAN コントローラがある場合、それぞれを個別に有効または無効にできます。

#### *Disabled*

LAN コントローラが無効になります。

#### *Enabled*

LAN コントローラが有効になります。

### *LAN n Opmom*

BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートデバイスとして LAN コントローラを使用できます。このパラメータは、Option ROM を起動するかどうかを指定し、起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。

#### *Disabled*

いかなる Option ROM も起動しません。

#### *PXE*

PXE を使用したブート機能を提供するために、PXE Option ROM を起動します。

#### *iSCSI*

iSCSI を使用したブート機能を提供するために、iSCSI Option ROM を起動します。

### *High Precision Timer*

有効にした場合は、OS が High Precision Event Timer を使用できます。これによって、タイム クリティカルなアプリケーションの要件を満たすことができます。このタイマは、マルチメディアタイマとも呼ばれています。

#### *Enabled*

*High Precision Timer* が有効になります。

#### *Disabled*

*High Precision Timer* が無効になります。

## 4.7 Memory Status

このサブメニューで、メモリーモジュールが故障していることを示すことができます。少なくとも 1 つの正常なモジュールまたはバンクが使用可能な場合にシステムがリブートされると、故障のあるメモリーモジュールは使用されなくなります。同時に、メモリ容量が少なくなります。

*DIMM-xx*

メモリーモジュールの現在のステータスを示します。

*Enabled*

システムはメモリーモジュールを使用します。

*Disabled*

システムはこのメモリーモジュールを使用しません。手動で使用不能にされました。

*Failed*

システムはこのメモリーモジュールを使用しません。メモリエラー後に、メモリーモジュールは自動的に使用不能になります。故障のあるメモリーモジュールを交換した場合は、エントリを再び「Enabled」に設定する必要があります。

*Empty*

メモリーモジュールが搭載されていません。



## 4.8 Super IO Configuration

システムスーパー IO チップのパラメータを表示します。

*Super IO Chip*

スーパー IO チップの情報を表示します。

### 4.8.1 Serial Port 1 Configuration

シリアルポート 0 のパラメータを設定します (COMA)。

*Serial Port*

シリアルポートを使用できるかどうかを指定します。

*Disabled*

シリアルポートは使用できません。

*Enabled*

シリアルポートは使用できます。

*Device Settings*

該当のシリアルポートへのアクセスに使用するベース I/O アドレスと割り込みを表示します。IO=3F8h; IRQ=4 などです。

*Change Settings*

該当のシリアルポートへのアクセスに使用するベース I/O アドレスと割り込みを選択します。

*Auto*

[IO=3F8h; IRQ=4;]

[IO=3F8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=2F8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=3E8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

[IO=2E8h; IRQ=3,4,5,6,7,9,10,11,12;]

シリアルポートは、上記のリストから選択されたアドレスと割り込みを使用します。リソースが競合する場合、設定は「Auto」に変更されることがあります。

## 4.9 Network Stack

### *Network Stack*

UEFI Network Stack を UEFI でネットワークアクセスに使用できるかどうかを設定します。たとえば、UEFI ネットワークスタックを使用できない場合、PXE 経由で UEFI インストールを実行できません。

#### *Disabled*

UEFI ネットワークスタックは使用できません。

#### *Enabled*

UEFI ネットワークスタックは使用できます。

### *Ipv4 PXE Support*

オペレーティングシステムのインストールに、Ipv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。

#### *Disabled*

Ipv4 による PXE UEFI Boot は使用できません。

#### *Enabled*

Ipv4 による PXE UEFI Boot を使用できます。

### *Ipv6 PXE Support*

オペレーティングシステムのインストールに、Ipv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。

#### *Disabled*

Ipv6 による PXE UEFI Boot は使用できません。

#### *Enabled*

Ipv6 による PXE UEFI Boot を使用できます。

## 4.10 PCI Status

このサブメニューは、スロット内の拡張カードの現在のステータスを示します。

### *PCI Slot n*

このスロット内の拡張カードの現在のステータスを示します。

#### *Enabled*

このスロットに対してエラーが報告されませんでした。このスロット内の拡張カードは、何の制限もなく使用できます。

*Failed*

このスロットに対してエラーが検出されました。スロット内の拡張カードに問題がある可能性があります。

*Empty*

このスロット内に拡張カードがありません。

## 4.11 Option ROM Configuration

*Launch Slot n OpROM*

このスロットに取り付けられている拡張カードのレガシー Option ROM を起動するかどうかを制御します。

*Disabled*

拡張カードの Option ROM を起動しません。

*Enabled*

拡張カードの Option ROM を起動します。

## 4.12 iSCSI Configuration

LAN コントローラ用の UEFI ドライバ (オンボード LAN または PCIe カード) がロードされる場合は、iSCSI 経由でのブート用のパラメータをここで設定できます。メニューは、UEFI ドライバ専用です。メニューは、レガシー OpROM には適用されません。

LAN コントローラの UEFI ドライバがロードされていない、またはシステムに LAN コントローラが存在しない場合は、このメニューは使用されません。

## 4.13 Driver Health

PCI エクスプレスデバイスの UEFI ドライバが Driver Health Protocol をサポートしている場合は、UEFI ファームウェアは、UEFI ファームウェアが管理しているデバイスのヘルスステータスを UEFI ドライバにクエリすることができます。

このメニューに、Driver Health をサポートしている UEFI ドライバのヘルスステータスが表示されます。



## 5 Security メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

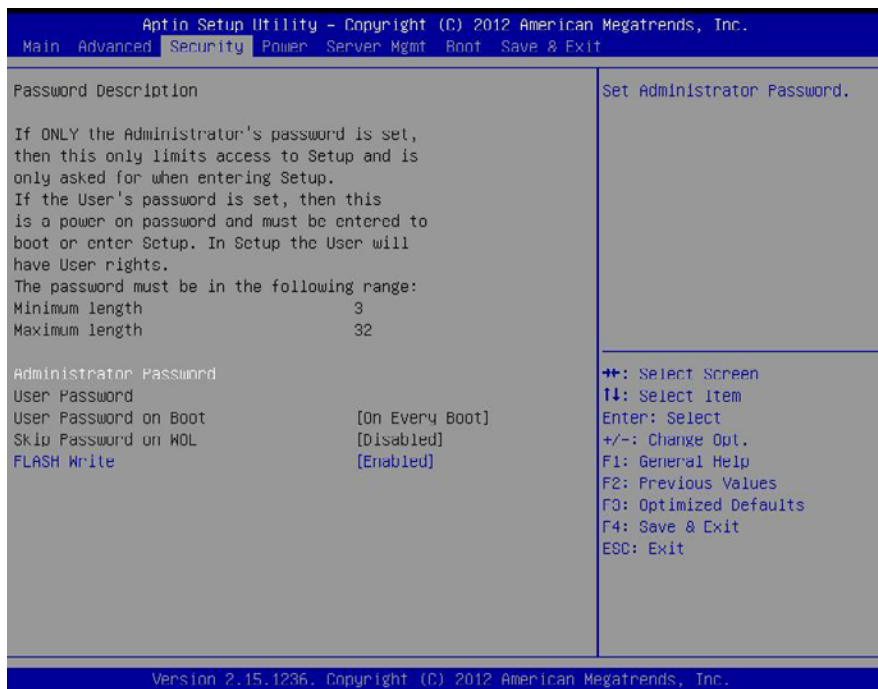


図 4: 「Security」メニューの例

### Administrator または User パスワードのいずれも割り当てられていない

BIOS セットアップユーティリティの起動およびシステムの起動は制限されません。

### Administrator パスワードのみが割り当てられている

Administrator パスワードのみが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティは保護されます。システムの起動は制限されません。BIOS セットアップユーティリティを Administrator パスワードで起動する場合、Administrator レベルになり、BIOS セットアップユーティリティへのフルア

アクセスが得られます。パスワードなしで BIOS セットアップユーティリティを起動すると、User レベルのみが得られるため、BIOS セットアップユーティリティへのアクセスは制限されます。

### User パスワードのみが割り当てられている

User パスワードのみが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティおよびシステムの起動は User パスワードによって保護されます。User パスワードで BIOS セットアップユーティリティを起動する場合、User は Administrator レベルになり、BIOS セットアップユーティリティへのフルアクセスが得られます。パスワードなしで BIOS セットアップユーティリティを起動することはできません。

### Administrator と User パスワードが割り当てられている

Administrator と User パスワードが割り当てられている場合、BIOS セットアップユーティリティの権限は入力したパスワードに依存します。BIOS セットアップユーティリティを Administrator パスワードで起動すると、BIOS セットアップユーティリティへのフルアクセスが付与され、User パスワードを入力するとアクセスは制限されます。システムの起動は、User パスワードでも Administrator パスワードでも可能です。



Administrator パスワードを削除すると、User パスワードも消去されます。

このシステムは、3 回パスワード入力を行うとシャットダウンします。この場合、サーバの電源を入れ直して、正しいパスワードを入力します。

#### *Administrator Password*

**[Enter]** キーを押すとウィンドウが開き、Administrator パスワードを設定することができます。文字列を入力して、パスワードを設定します。パスワードフィールドに何も入力しないで確定すると、パスワードは削除されます。



完全な BIOS セットアップユーティリティを呼び出すには、Administrator のアクセスレベルが必要です。Administrator パスワードが割り当てられている場合、User パスワードには BIOS セットアップユーティリティへの非常に限定的なアクセスのみ許可されます。

*User Password*

[Enter] キーを押すとウィンドウが開き、User パスワードを定義することができます。文字列を入力して、パスワードを設定します。ユーザーパスワードは、システムへの不正アクセスを防止します。

*User Password on Boot*

ブート時に、ユーザパスワードのプロンプトを表示するかどうかを指定します。

*Every Boot*

すべてのブート時にパスワードのプロンプトを表示します。

*Disabled*

パスワードを常に不揮発性ストレージから取得し、パスワードプロンプトを表示しません。

*Skip Password on WOL*

Wake On LAN でのブート時に user パスワードを省略するか、入力する必要があるかを指定します。

*Disabled*

OS のブート時に User パスワードをキーボードで入力する必要があります。

*Enabled*

Wake On LAN でのブート時に、user パスワードは無効になります。

*FLASH Write*

BIOS システムへの書き込み保護を設定します。

*Disabled*

BIOS システムへの書き込みはできません。Flash-BIOS アップデートはできません。

*Enabled*

BIOS システムへ書き込みできます。Flash-BIOS アップデートは可能です。





## 6 Power メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。



図 5: 「Power」メニューの例

### *Power-on Source*

システムの電源管理機能を BIOS と ACPI OS のどちらで管理するかを指定します。

#### *BIOS Controlled*

電源管理機能は BIOS によって管理されます。

#### *ACPI Controlled*

電源管理機能は ACPI OS によって管理されます。

## 6.1 Wake-Up Resources

### *LAN*

システムボードまたは拡張カード上の LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができるようにするかの設定です。

#### *Disabled*

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることはできません。

#### *Enabled*

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができます。

### *Wake On LAN boot*

ネットワーク信号によって電源を入れた場合のシステム動作を指定します。

#### *Boot Sequence*

システムは LAN 経由で電源を入れた場合、「Boot」メニューで指定されたデバイスシーケンスに従って起動します。

#### *Force LAN Boot*

システムは LAN 経由で電源を入れた場合、リモートで LAN から起動します。

## 7 Server Mgmt メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。



図 6: Server Mgmt メニューの例

### Boot Retry Counter

OS システムの最大ブート試行回数を指定します。ブートの試行が失敗するたびに、「Boot Watchdog」で設定した時間の経過後、システムがリブートされます。その他の重大なシステムエラーが発生した場合も、システムがリブートされ、カウンターの値が減少します。最後の試行後、システムは最終的に電源が切られます。

指定できる値は以下のとおりです。0 ~ 7（再試行可能回数）

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

### Power Cycle Delay

システムの電源切断から電源再投入までの最小必須経過時間を指定します。

指定できる値は 0 ～ 15 秒です。

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

### *ASR&R Boot Delay*

エラー（気温が高すぎるなど）が原因でシステムがシャットダウンした後のシステム起動までの時間を指定します。システムは、設定した待ち時間の経過後に、起動されます。

指定できる値は 1 ～ 30 分です。

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

### *Temperature Monitoring*

周辺温度またはプロセッサの温度が上限値を超えた場合に、システムの動作を停止させるかどうかを指定します。これによって、システムやデータの破損を防止します。サーバ管理ソフトが OS 上で動作している場合は、温度監視機能からサーバ管理ソフトに管理権が移動し、温度値が臨界レベルに達すると、システムをシャットダウンします。

「Boot Retry Counter」に基づいて、「ASR&R Boot Delay」で設定した時間の経過後にシステムは再び動作可能になります。この期間にシステムを再び冷却する必要があります。

#### *Disabled*

温度が上限値を超えた場合に、システムの電源は自動的に切断されません。

#### *Enabled*

温度が上限値を超えた場合に、システムの電源は自動的に切断されます。

### *Event Log Full Mode*

システムイベントログを上書き可能にするかどうかを指定します。

#### *Overwrite*

システムイベントログが一杯になると、システムイベントログ内の最も古いエントリが追加のイベントによって上書きされます。新しいイベントが古いイベントよりも重要な場合に指定します。

#### *Maintain*

システムイベントログが一杯になると、これ以上イベントは入力されません。最初にシステムイベントログファイルを消去しなければ、さらにイベントを入力することはできません。古いイベントが新しいイベントよりも重要な場合に指定します。

*Load iRMC Default Values*

iRMC デフォルト値がロードされるかどうかを指定します。

*No*

何も行われません。

*Yes*

「*Save Changes and Exit*」を選択して BIOS セットアップユーティリティを終了すると、iRMC デフォルト値がロードされます。iRMC に影響を与える BIOS セットアップユーティリティのいかなる設定も、この設定によって失われません。この設定は、iRMC デフォルト値のロード後に iRMC に送信されます。したがって、該当する値が再度上書きされます。

デフォルト値のロード後、この設定は自動的に「*No*」に設定されます。

*Power Failure Recovery*

停電後のシステムの再起動動作を指定します。

*Always Off*

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を切断します。

*Always On*

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を投入します。

UPS スケジュール運転の場合は、「*Always On*」に設定してください。「*Always On*」に設定しないと、設定された電源投入時刻になってもサーバの電源が入らない場合があります。

*Previous State*

システムは、ステータスチェックを行ってから、停電発生前のモード（*On* または *Off*）を返します。



短い初期化プロセスで、すべての起動ソースが再設定されます。システムは、LAN などを経由して起動できます。「*Disabled*」が設定されると、システムを起動できるのは電源ボタンのみとなります。

*Asset Tag*

SMBIOS Type 3 の「*Asset Tag*」フィールドを表示します（システム本体またはシャーシ）。「*Asset Tag*」を変更または挿入するには、このセットアップオプションを選択して **[Enter]** キーを押します。ウィンドウが開き、文字列を入力したり、既存の文字列を変更したりすることができます。英数字のみを入力できます。

### *Onboard Video*

ディスプレイカードがシステムに取り付けられている場合は、システムボード上のグラフィックコントローラを無効にできます。

#### *Disabled*

システムボード上のグラフィックコントローラは無効になります。

#### *Enabled*

システムボード上のグラフィックコントローラは有効になります。

### *Serial Multiplexer*

システムでシリアルインタフェースを使用できるかどうかを指定します。

#### *System*

システムまたは OS でシリアルインタフェースを使用できます。

#### *iRMC*

iRMC でのみシリアルインタフェースを使用できます。OS では、このシリアルインタフェースを使用できません。

### *Boot Watchdog*

サーバ管理ソフト (ServerView Agent) が iRMC との接続を確立できない場合にシステムを再起動するかどうかを設定します。OS の起動が成功した後、ServerView Agent は、指定された期間内に iRMC との通信を開始します。

タイムアウトが発生すると、iRMC は起動エラーを想定し、このエラーからシステムを回復するためにシステムを再起動することができません。

#### *Disabled*

iRMC は *Boot Watchdog Timeout Value* によるシステムの再起動を行いません。iRMC が誤ってシステムを再起動しないようにするため、ServerView がインストールされていない場合はこの選択肢を使用してください。

#### *Enabled*

iRMC は OS 起動エラーを想定するため、*Boot Watchdog Timeout Value* でシステムを再起動します。



「Enabled」を設定すると、サーバが正しく動作しない場合があります。たとえば、指示なしに自動的にサーバの電源が切れたり、再起動する場合があります。

- ServerView Suite を使用してシステムを起動する場合は、システムに ServerView Agent がインストールされている場合でも、必ず *Boot Watchdog* を無効にしてください。この項目を有効にしてシステムを起動すると、サーバが正しく動作しない場合があります。たとえば、指示なしに自動的にサーバの電源が切れたり、再起動する場合があります。
- この機能を設定する場合は、ServerView Suite のマニュアルを参照してください。

#### *Timeout Value*

「*Boot Watchdog*」が「Enabled」になっている場合に、システムのリブートまでの時間を指定します。  
指定できる値は 0 ～ 100 です。

0

時間監視が有効になります。

1...100

選択した時間（分単位）が経過した後、システムはリブートされます。

☐ キーまたは ☐ キーを押すと、この値を増減できます。

#### *Action*

*boot watchdog* が動作した後に行う動作を指定します。

##### *Continue*

システムは引き続き動作します。

##### *Reset*

システムは、システムリセットによって再起動されます。

##### *Power Cycle*

システムは、電源切断 / 投入を行います。

#### *iRMC LAN Parameters Configuration*

リモートマネジメントコントローラの設定に使用するサブメニュー（[49 ページ](#)の「*iRMC LAN Parameters Configuration*」を参照）を呼び出します。

#### *Console Redirection*

コンソールリダイレクションの設定に使用するサブメニュー（[48 ページ](#)の「*Console Redirection*」を参照）を呼び出します。

## 7.1 Console Redirection

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### *Console Redirection*

端末との通信に使用するインタフェースを指定します。

#### *Disabled*

コンソールリダイレクションは使用不能になります。

#### *Serial 1*

最初のシリアルインタフェースがこの装置によって使用されます。

### *Baud Rate*

端末との通信に使用する転送速度を指定します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

9600, 19.2 K, 38.4 K, 57.6 K, 115.2 K

データは、設定した速度で端末に転送されます。

### *Protocol*

割り当てられているコンソールのタイプを示します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

VT100, PC ANSI, VT100+, VT-UTF8

割り当てられているコンソールが、端末へのデータ転送に使用されます。

### *Flow Control*

この設定は、インタフェースを介した転送の制御方法を指定します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

#### *None*

転送をコントロールせずにインタフェースを動作させます。

#### *CTS/RTS*

転送コントロールは、ハードウェアで行います。このモードが、ケーブルでもサポートされている必要があります。



## 7.2 iRMC LAN Parameters Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

### *Management LAN*

iRMC で使用できる LAN インターフェースを有効にします。

#### *Disabled*

iRMC LAN インターフェースは無効になります。

#### *Enabled*

iRMC LAN インターフェースは有効になります。

### *iRMC MAC Address*

iRMC の MAC アドレスを表示します。iRMC MAC アドレスは、ブロックに分割され、コロンで区切られます。

### *Management LAN Port*

iRMC で使用できる LAN インタフェースを指定します。iRMC とオンボード LAN が LAN インタフェースを共有できるか、iRMC が専用の LAN インタフェースを使用できます。Management LAN インタフェースは、スパナのアイコンで示されます。

#### *Management*

iRMC は専用の LAN インタフェースを使用します。

#### *Shared*

iRMC とオンボード LAN は、LAN インタフェースを共有します。

### *Management LAN Speed*

監視用 LAN ポートの速度を指定します。

#### *Auto*

速度は LAN コントローラによって自動的にネゴシエートされます。

#### *100 Mbit/s Full Duplex*

最大速度 100 Mbit/s。双方向での同時通信が可能です。

#### *100 Mbit/s Half Duplex*

最大速度 100 Mbit/s。一度に単方向での通信のみが可能です。

#### *10 Mbit/s Full Duplex*

固定速度 10 Mbit/s。双方向での同時通信が可能です。

### *10 Mbit/s Half Duplex*

固定速度 10 Mbit/s。一度に単方向での通信のみが可能です。

### *1000 Mbit/s*

最大速度 1000 Mbit/s。

## *Management VLAN*

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを有効にします。

### *Enabled*

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを有効にします。

### *Disabled*

IEEE 802.3 Ethernet の IP セッションにより、IPMI の IEEE 802.1q VLAN（仮想 LAN）ヘッダのサポートを無効にします。

## *VLAN ID*

VLAN ヘッダの値にタグを付けます。

指定できる値は 0 ～ 4094 です。

## *VLAN Priority*

使用する VLAN ユーザプライオリティフィールドの値を指定します。

指定できる値は 0 ～ 7 です。

## *iRMC IPv4 LAN Stack*

IPv4 LAN スタックを iRMC に使用できるかどうかを設定します。

### *Disabled*

IPv4 LAN スタックは iRMC に使用できません。

### *Enabled*

IPv4 LAN スタックは iRMC に使用できます。

## *IP configuration*

iRMC に対する DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）のサポートを使用するかどうかを指定します。DHCP ネットワークプロトコルを使用してネットワーク内の DHCP サーバから iRMC に IP アドレスを自動的に割り当てることができます。

### *use DHCP*

iRMC に対する DHCP のサポートが使用されます。DHCP サーバから、ローカル IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを要求されます。

*use static configuration*

iRMC に対する DHCP のサポートは無効になります。ローカル IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを手動で入力する必要があります。

*IP Address*

iRMC の IP アドレスを指定します。  
0 ~ 255 の数値を指定できます。

*Subnet Mask*

iRMC のサブネットマスクを指定します。OS と同じサブネットマスクを使用してください。  
0 ~ 255 の数値を指定できます。

*Gateway Address*

iRMC のゲートウェイアドレスを指定します。  
0 ~ 255 の数値を指定できます。

*iRMC IPv6 LAN Stack*

IPv6 LAN スタックを iRMC に使用できるかどうかを設定します。

*Disabled*

IPv6 LAN スタックは iRMC に使用できません。

*Enabled*

IPv6 LAN スタックは iRMC に使用できます。

*Unique Local Address*

IPv6 アドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

*Link Local address*

IPv6 アドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

### *IPv6 Router*

IPv6 ルーターアドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

### *IPv6 Gateway*

IPv6 ゲートウェイアドレスを示します。IP アドレスは、コロンで区切られたブロックに区切られます。

## 8 Boot メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

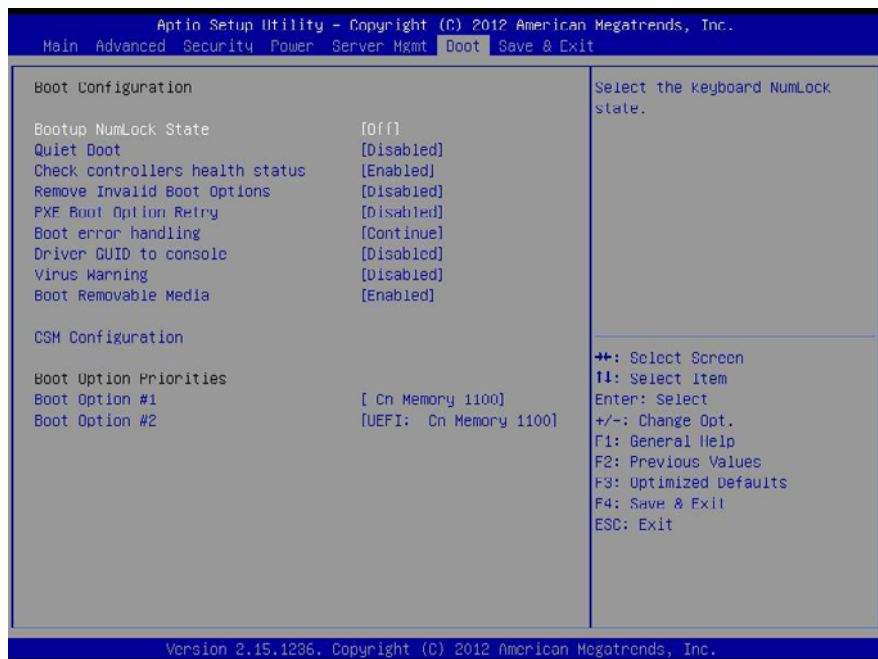


図 7: 「Boot」メニューの例

このメニューを使用して、システムを起動するドライブのシーケンスを定義できます。最大 8 つのドライブ（および USB インターフェースなども）をリストできます。

操作については、このメニューのヘルプ領域を参照してください。

### *Bootup NumLock State*

システムが起動したときに NumLock 機能の設定を指定します。  
NumLock はキーボードのテンキーの使用方法を制御します。

#### *On*

NumLock は有効で、キーボードのテンキーを使用できます。

#### *Off*

NumLock は無効で、キーボードのテンキーのカーソル機能を使用できます。



キーボードの Num 表示ランプは現在の「Bootup NumLock State」を報告します。キーボードの [Num] キーで、On / Off の切り替えができます。

### *Quiet Boot*

POST 起動時の情報ではなく、ブートロゴが画面に表示されます。

#### *Disabled*

POST 起動時の情報が画面に表示されます。

#### *Enabled*

ブートロゴ表示されます。

### *Check Controllers Health Status*

PCIe デバイスの UEFI ドライバオプション ROM が Controller Health インターフェースをサポートしている場合は、UEFI FW は、UEFI FW が管理しているデバイスのヘルスステータスを UEFI ドライバオプション ROM にクエリすることができます。

#### *Disabled*

コントローラのヘルスステータスは、UEFI FW でチェックされません。

#### *Enabled*

UEFI FW は、コントローラのヘルスステータスをチェックします。

### *Remove Invalid Boot Options*

システムに接続されていないデバイスの UEFI ブートオプションが「Boot Option Priority」リストから削除されるかどうかを指定します。

#### *Disabled*

UEFI ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されません。

*Enabled*

UEFI ブートオプションは「Boot Option Priority」から削除されます。

*PXE Boot Option Retry*

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションを再試行するかどうかを指定します。

*Disabled*

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションは再試行されません。

*Enabled*

ユーザの入力を待たずに、NON-EFI ブートオプションが継続的に再試行されます。

*Boot error handling*

エラーの検出時にシステムのブートプロセスを一時停止し、システムを停止するかどうかを指定します。

*Continue*

システムブートは一時停止しません。エラーは可能な限り無視されます。

*Pause and wait for key*

エラーが POST 中に検出された場合、システムブートは一時停止します。

*Driver GUID to console*

開始された各 UEFI ドライバの GUID (Globally Unique Identifier) をコンソールに通知するかどうかを指定します。システムスタートアップの初期段階での問題を調査する際に、役に立ちます。

*Disabled*

ドライバ GUID はコンソールに通知されません。

*Enabled*

ドライバ GUID はコンソールに通知されます。

### *Virus Warning*

前回のシステムの起動以降何らかの変更が行われているかどうかを確認するために、ハードディスクドライブのブートセクタをチェックします。ブートセクタが変更されていて、その変更理由が不明な場合は、適切なウイルス検出プログラムを実行する必要があります。

#### *Disabled*

ブートセクタはチェックされません。

#### *Enabled*

前回のシステムの起動以降ブートセクタが変更された場合（たとえば、OS を新しくしたり、ウイルスの攻撃を受けたなど）に警告を表示します。「*Confirm*」を選択して変更を受け入れるか、この機能を無効にするまで、画面に警告が表示されます。

### *Boot Removable Media*

USB メモリなどのリムーバブルデバイスへのブートのサポートが可能かどうかを指定します。

#### *Disabled*

リムーバブルデバイスへのブートは非アクティブ化されます。

#### *Enabled*

リムーバブルデバイスへのブートはアクティブ化されます。

### *Boot Option Priorities*

現在のブート順位が表示されます。

- ▶ ブート順位を変更するデバイスを選択するには、カーソルキー **[↑]** または **[↓]** を押します。
- ▶ **[Enter]** キーを押して、ブート順位を変更するデバイスを選択します。
- ▶ 選択したデバイスをブート順位から削除するには、**[Enter]** キーを押して「*Disabled*」を選択します。



## 8.1 CSM Configuration

CSM (Compatibility Support Module) のサブメニューを開いて設定します。



このサブメニューは、「Setup/Secure Boot Configuration」の「Secure Boot Control」メニューが無効な場合のみ使用できます。

### *Launch CSM*

CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうかを指定します。CSM がロードされている場合のみ、レガシーオペレーティングシステムを起動できます。

#### *Enabled*

Legacy または UEFI オペレーティングシステムを起動できるように、CSM が実行されます。

#### *Disabled*

UEFI オペレーティングシステムのみ起動できるように、CSM は実行されません。

### *Boot option filter*

どちらのドライブからブートできるかを指定します。

#### *UEFI and Legacy*

UEFI OS ドライブおよび Legacy OS ドライブからブートできます。

#### *Legacy only*

Legacy OS ドライブからのみブートできます。

#### *UEFI only*

UEFI OS ドライブからのみブートできます。

### *Launch PXE OpROM Policy*

起動する PXE Option ROM を指定します。PXE ブートの場合は、使用可能な通常の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。

#### *Do not launch*

Option ROM は起動されません。

#### *UEFI only*

UEFI Option ROM のみ起動されます。

#### *Legacy only*

Legacy Option ROM のみが起動します。

### *Launch Storage OpROM policy*

起動する Storage Option ROM を指定します。

#### *Do not launch*

Storage Option ROM は起動されません。

#### *UEFI only*

UEFI Storage Option ROM のみ起動されます。

#### *Legacy only*

Legacy Storage Option ROM のみ起動されます。

### *Other PCI device ROM priority*

ネットワーク、マスのストレージデバイス、ビデオ以外の、デバイスで起動する Option ROM を指定します。

#### *UEFI OpROM*

UEFI Option ROM のみ起動されます。

#### *Legacy OpROM*

Legacy Option ROM のみが起動します。

## 9 Save & Exit メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。

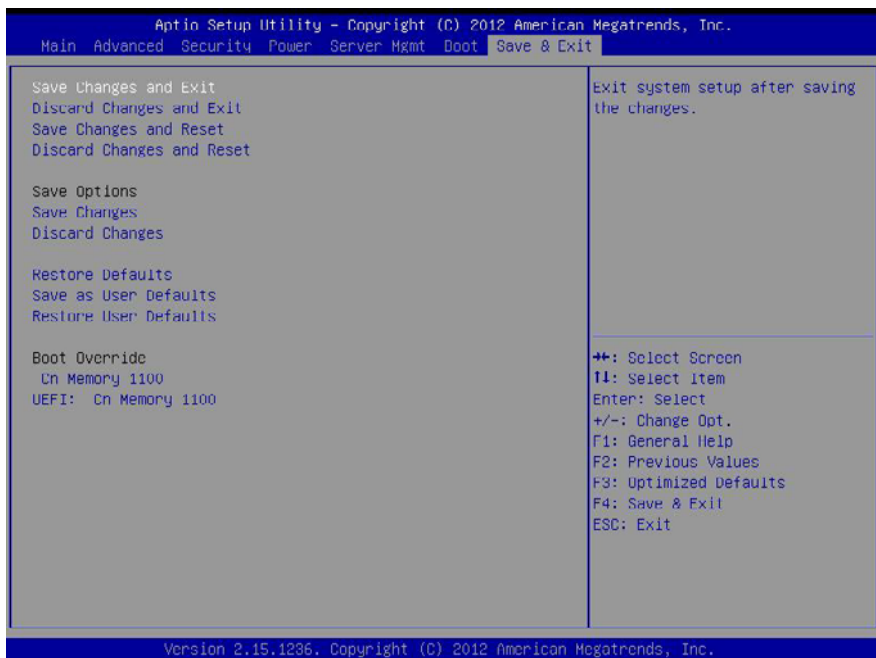


図 8: 「Save & Exit」メニューの例

### *Save Changes and Exit*

現在のメニューエントリを保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択します。

新しい設定が有効になり、変更されたオプションでリセットが不要であれば POST が続きます。

### *Discard Changes and Exit*

「*Discard Changes and Exit*」を選択し、「*Yes*」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

BIOS セットアップユーティリティが閉じられ、POST が続きます。

## Save & Exit メニュー

---

### *Save Changes and Reset*

現在のメニューエントリを保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Reset*」を選択し、「Yes」を選択します。

リセットが開始され、新しい設定が有効になります。

### *Discard Changes and Reset*

「*Discard Changes and Reset*」を選択し、「Yes」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

BIOS セットアップユーティリティが閉じられ、リセットが開始されます。

### *Save Changes*

「*Save Changes*」を選択し、「Yes」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティを終了せずにこれまでに行った変更が保存されます。

### *Discard Changes*

「*Discard Changes*」を選択し、「Yes」を選択すると、BIOS セットアップユーティリティを終了せずに、IOS セットアップユーティリティの起動後、または「*Save Changes*」の呼び出し後に行った変更が破棄されます。

### *Restore Defaults*

すべての BIOS セットアップユーティリティメニューをリセットしてデフォルト値を使用するには、「*Restore Defaults*」を選択し、「Yes」を選択します。

これらの設定で BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「Yes」を選択します。




### *Save as User Defaults*

「*Save as User Defaults*」を選択した後「Yes」を選択して、これまで行った変更をデフォルトとして保存します。

### *Restore User Defaults*

すべての BIOS セットアップユーティリティメニューをリセットしてユーザデフォルト値を使用するには、「*Restore User Defaults*」を選択し、「Yes」を選択します。これらの設定で BIOS セットアップユーティリティを終了するには、「*Save Changes and Exit*」を選択し、「Yes」を選択します。

### *Boot Override*

カーソルキー  または  を使用して OS を起動するドライブを選択します。 を押して、選択したドライブからブートを開始します。

## 10 Flash BIOS アップデート

Flash BIOS アップデートを実行するには、最初に、必要なファイルをインターネットからダウンロードする必要があります。



### 注意！

BIOS はフラッシュメモリデバイスに保存されます。Flash BIOS アップデート手順でエラーが発生すると、フラッシュメモリ内の BIOS イメージが破壊される場合があります。破壊された場合の BIOS の復元は、「*Flash Memory Recovery Mode*」を使用する以外に方法はありません（63 ページの「*Flash Memory Recovery Mode*」を参照）。これで復元できない場合は、フラッシュメモリデバイスを交換する必要があります。カスタマサポート「Service Desk」にお問い合わせください。

- ▶ 万に備えて、BIOS セットアップユーティリティの設定を書き留めておきます。  
通常、Flash BIOS アップデートは、BIOS セットアップユーティリティの設定に影響を与えません。
- ▶ 次のインターネットページを呼び出します：  
<http://support.ts.fujitsu.com/Download>



日本市場の場合は以下の URL をご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

- ▶ システムを「*Select Product*」から選択するか、または「*Product Search by Serial-/Identnumber*」からシステムを探します。
- ▶ 「*Driver & Downloads*」をクリックして、OS を選択します。
- ▶ *Flash-BIOS* を選択します。

### Flash BIOS Update - Desk Flash Instant

- ▶ Flash BIOS アップデートの「*Flash BIOS Update - Desk Flash Instant*」ファイルを Windows にダウンロードします。

### Admin package - Compressed Flash Files

- ▶ 使用している OS を選択できない場合、任意の OS を選択して、Flash BIOS アップデート用の「*Admin package - Compressed Flash Files*」ファイルを USB スティックにダウンロードします。

### Windows 上の Flash BIOS アップデート

- ▶ OS を起動します。



*Desk Flash Instant* の実行は Administrator 権限に限定されます。

- ▶ Windows エクスプローラを開いて、ダウンロードした「Flash BIOS Update - Desk Flash Instant」を選択し、ダブルクリックして Flash BIOS アップデートを開始します。画面に表示される手順に従います。
- ▶ Flash BIOS アップデートの後、システムは自動的に再起動します。新しい BIOS バージョンで起動します。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。

### USB スティック内の Flash BIOS アップデート

- ▶ 起動可能な USB スティックがあることを確認してください。



USB スティックが起動可能ではない場合、次の手順に従います。

- ▶ 「Admin package - Compressed Flash Files」からメニュー項目「Installation Description - More information」を選択します。
- ▶ 次の手順に従います。

BIOS アップデートファイルを保存する USB メモリが必要です。  
USB スティック状のデータは完全に消去され、上書きされます。

あらかじめ、すべてのデータを保存したことを確認します。
- ▶ 「Admin package - Compressed Flash Files」からダウンロードした zip ファイルを展開して、すべてのファイルとディレクトリを起動可能な USB スティックにコピーします。
- ▶ 挿入した起動可能な USB スティックからシステムをブートします。
- ▶ 画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F12]** を押して、矢印キー **[↑]** と **[↓]** を使用して起動可能な USB スティックを選択します。
- ▶ `cd DOS` でディレクトリを変更して、コマンド `DosFlash` で Flash BIOS アップデートを開始します。画面に表示される手順に従います。
- ▶ Flash BIOS アップデートの後、システムは自動的に再起動します。システムは、新しい BIOS リビジョンでブートされます。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。

## 10.1 Flash Memory Recovery Mode

- ▶ 「USB メモリ内のFlash BIOS アップデート」の項に記載したように、起動可能な USB メモリを用意します。
- ▶ システムの電源を切って、電源プラグを抜きます。
- ▶ シャーシを開き、システムボード上のジャンパ/DIP スイッチを使用して「Recovery」(BIOS-RCV) に設定します。
- ▶ 電源プラグを差し込み、挿入した起動可能な USB メモリでシステムをブートします。
- ▶ 挿入した起動可能な USB メモリからシステムをブートします。
- ▶ cd DOS でディレクトリを変更して、コマンド `DosFlash` で Flash BIOS アップデートを開始します。画面に表示される手順に従います。
- ▶ 画面上でアップデート処理が完了するのを確認します。リカバリアップデートには数分かかる場合があります。
- ▶ システムの電源を切って、電源プラグを抜きます。
- ▶ USB メモリを取り外します。
- ▶ 初期位置に変更されていた「リカバリ」(BIOS-RCV) ジャンパ/DIP スイッチを元に戻します。
- ▶ 再度電源プラグを差し込んで、システムの電源を投入します。システムは、新しい BIOS リビジョンでブートされます。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。





---

# Index

## A

- Above 4G Decoding [20, 21](#)
- Access Level [16](#)
- Action [47](#)
- Active Processor Cores [23](#)
- Adjacent Cache Line Prefetch [24](#)
- Administrator Password [38](#)
- Aggressive Link Power Management (ALPM) [27](#)
- ASPM Support [20](#)
- ASR&R Boot Delay [44](#)
- Asset Tag [45](#)

## B

- Baud Rate [48](#)
- BIOS セットアップ  
メニューの概要 [9](#)  
終了する [14](#)  
開く [11](#)
- Boot メニュー  
直ちに開く [11](#)
- Boot error handling [55](#)
- Boot option filter [57](#)
- Boot Option Priorities [56](#)
- Boot Override [60](#)
- Boot Removable Media [56](#)
- Boot Retry Counter [43](#)
- Boot Watchdog [46](#)
- Bootup NumLock State [54](#)

## C

- Change Settings [33](#)
- Check Controller Health Status [54](#)
- Console Redirection [48, 47](#)
- CPU C3 Report [26](#)
- CPU C6 Report [26](#)
- CPU C7 Report [26](#)

## D

- Device Settings [33](#)
- DIMM-xx [32](#)

- Discard Changes [60](#)
- Discard Changes and Exit [59](#)
- Discard Changes and Reset [60](#)
- DMI Control [21](#)
- Driver GUID to console [55](#)

## E

- Enhanced SpeedStep [25](#)
- Event Log Full Mode [44](#)
- Execute Disable Bit [24](#)

## F

- Flash Write [39](#)
- Flow Control [48](#)

## G

- Gateway Address [51](#)

## H

- Hardware Prefetcher [24](#)
- High Precision Timer [31](#)
- Hyper-Threading [23](#)

## I

- Intel Virtualization Technology [25](#)
- IP Address [51](#)
- IP configuration [50](#)
- Ipv4 PXE Support [34](#)
- IPv6 Gateway [52](#)
- IPv6 Router [52](#)
- Ipv6 PXE Support [34](#)
- iRMC IPv4 LAN Stack [50](#)
- iRMC IPv6 LAN Stack [51](#)
- iRMC LAN Parameters  
Configuration [47](#)
- iRMC MAC Address [49](#)

## L

- LAN 1 Controller [31](#)
- LAN n Oprom [31](#)
- Launch CSM [57](#)
- Launch PXE OpROM Policy [57](#)

## Index

---

- Launch Slot n OpROM [35](#)
- Launch Storage OpROM policy [58](#)
- Limit CPUID Maximum [24](#)
- Link Local Address [51](#)
- Load iRMC default Values [45](#)
- M**
- Management LAN Speed [49](#)
- Management VLAN [50](#)
- Management LAN [49](#)
- Management LAN Port [49](#)
- Mass Storage Device(s) [29](#)
- N**
- Network Stack [34](#)
- O**
- Onboard USB Controllers [29](#)
- Onboard Video [46](#)
- Other PCI device ROM priority [58](#)
- P**
- PCI Slot n [34](#)
- Pending TPM operation [22](#)
- Power Failure Recovery [45](#)
- Power-on Source [41](#)
- Power Cycle Delay [43](#)
- Protocol [48](#)
- PXE Boot Option Retry [55](#)
- Q**
- Quiet Boot [54](#)
- R**
- Remove Invalid Boot Options [54](#)
- Restore Defaults [60](#)
- Restore User Defaults [60](#)
- S**
- SATA Mode [27](#)
- Save as User Defaults [60](#)
- Save Changes [60](#)
- Save Changes and Exit [59](#)
- Save Changes and Reset [60](#)
- Serial Port [33](#)
- Serial Multiplexer [46](#)
- Skip Password on WOL [39](#)
- Socket 0 CPU Information [23](#)
- Subnet Mask [51](#)
- Super IO Chip [33](#)
- System Information [15](#)
- System Language [15](#)
- System Time [15](#)
- System Date [15](#)
- T**
- Temperature Monitoring [44](#)
- Timeout Value [47](#)
- TPM State [22](#)
- TPM Support [22](#)
- Turbo Mode [26](#)
- U**
- Unique Local Address [51](#)
- USB Legacy Support [28](#)
- USB Port Control [30](#)
- USB Devices [28](#)
- User Password [39](#)
- V**
- Virus Warning [56](#)
- VLAN ID [50](#)
- VLAN Priority [50](#)
- VT-d (Virtualization Technology) [25](#)
- W**
- Wake-up Resources
  - LAN [42](#)
  - Wake On LAN boot [42](#)
- X**
- xHCI Mode [28](#)







